

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【瀬戸市立長根小学校】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	5年生 77名 6年生 96名 (計173名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 (福祉実践教室)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉実践教室を通して、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア精神を育むとともに、互いの立場や考えを尊重する気持ちを育てる。 パラリンピック競技(車いすバスケットボール)を体験することで、障がい者スポーツへの理解を深める。
5 取組内容	<p>1 車いす体験</p> <p>(1) 実施日 11月11日(月) 5・6時間目</p> <p>(2) 対象 5年生</p> <p>(3) 内容</p> <p>瀬戸市社会福祉協議会では、瀬戸市の小中学校を対象に、障がい者の方から話を聞いたり、点字・手話・車いすなどの体験学習をしたりすることにより、「障がい」とは何かを学ぶ機会を設けている。社会福祉協議会の協力を得て、本校では毎年5年生を対象に「車いす体験」を行っている。今年は午後日程で2名の講師の方と3名のボランティアの方に来ていただいた。</p> <p>まず、講師の話を聞くクラスと体験を行うクラスに分かれて、活動を行った。講師からは実際に車いすを利用して生活している様子を聞くことができた。児童は熱心にメモを取りながら、車いすで生活する不便さを感じ、どんな関わり方をするのがよいのかを考える機会となった。</p>



次に、車いすの操作方法を学んだ。体育館でマットを使用した実践である。車いすは20台借りることができた。ペアに1台である。この方法だと操作の仕方と介助の仕方を同時に学ぶことができる。マットを利用して段差を越える体験を行い、実際に車いすを操作することによって、足の不自由な方の思いを知ることができた。



2 車いすバスケットボール体験

(1) 実施日 11月27日(水) 5・6時間目

(2) 対象 6年生

(3) 内容

今年も車いすバスケットボールチーム「クラブ東海」の選手を6名招いて6年生が体験を行った。名古屋障がい者スポーツセンターより車いすバスケットボール用車いすを6台借りた。

まず、講師の紹介と車いすバスケットボールとの出会いを聞くことができた。若い選手が多く、中には世界選手権に参加した経験のある選手もいた。障がいの有無に関係なく、明るく、元気に生きている姿に勇気づけられた。

次に選手による実演を観戦した。想像していたよりも過激なスポーツでスピード感もあり、迫力のあるものであった。

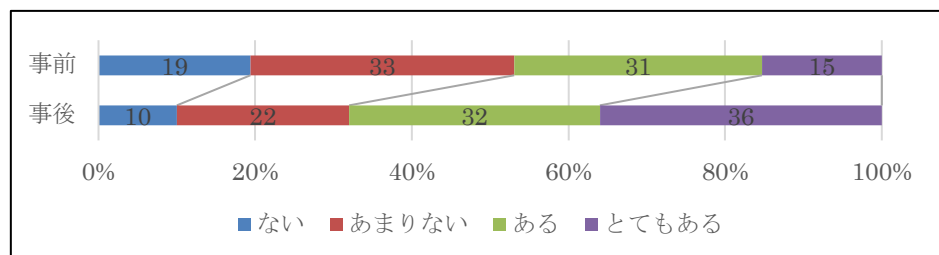
最後に、車いすバスケットボール用車いすに乗り、動かす練習をした後、チームに分かれ試合を行った。試合は全員の児童が参加することができた。



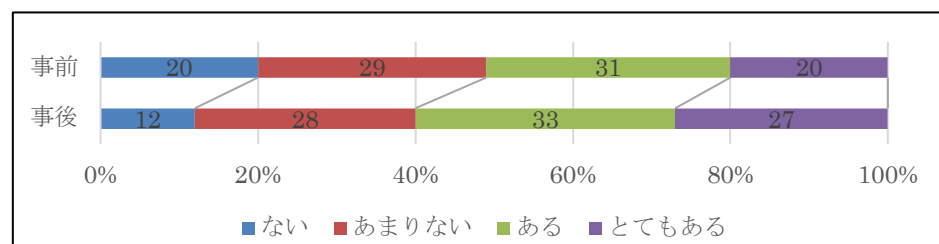
6 主な成果

【事前事後指導で行ったアンケート結果からの考察】

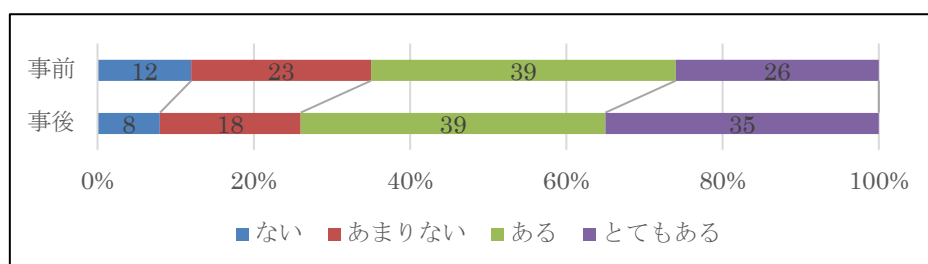
①あなたはパラリンピックに興味がありますか。



②将来パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。



③お年寄りや障害のある方と交流したいと思いますか。



「あなたはパラリンピックに興味がありますか。」という質問では、とても興味を持った児童が2倍に増えている。また、「将来パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。」という質問に対しても、事前事後では、全体的に数値が増えている。特に、6年生は車いすバスケットボール体験を通して、パラリンピックの興味を持った児童が多かった。障がいがあっても強くたくましく生きている選手と間近に接することができ、刺激を受けた結果であることは言うまでもない。

また、「お年寄りや障害のある方と交流したいと思いますか。」という質問に対しても「したくない」や「あまりしたくない」という数値が減っているのも、この体験の成果である。困っている人に手を差し伸べられる人になりたいという思いを強く持ったと考えられる。

【体験を通して児童の感想】

◎ 車いす体験（5年生）

- ・ 車いす体験を行って、わずかな段差でも車いすの方は大変だと思いました。
- ・ 車いすに乗っている友だちに声をかけるときには、耳元で優しくはっきりと話すことが大切だと教えてもらいました。そうすることで、乗っている人の不安を和らげることができることが分かりました。
- ・ 障がいのある人の思いが分かりました。将来、自分にできることは何かを考えました。
- ・ バリアフリーの大切さが分かりました。

◎ 車いすバスケットボール体験（6年生）

- ・ 車いすバスケットボールの選手の方々の試合を見て、スピードも速くて、倒れそうなのにバランスをとってやったり、遠くから車いすにすわったままでシュートしたりできたのはすごいと思いました。
- ・ 車いすバスケットボールの選手は自由に車いすを動かしたり、すごいスピードで前に進んだりするので、とても驚きました。車いすバスケットボールをやって、とても興味をもつことができました。他のパラリンピックの競技を知りたいと思いました。とても貴重な時間だったと思いました。
- ・ 私はバスケットボール部に入っているので、できるかと思っていました。意外と難しかったです。体験して足が悪くてもできる車いすバスケットボールはとても良いものだと思いました。
- ・ 5年生で車いす体験をしたものの、車いすバスケットボール用車いすの操作の仕方は難しかったです。足が使えない分、手の力をとても使ってパスやシュートをやったり、スピードを出したりしなければなりません。普通のバスケットは足と手を使ってやるのですが、改めて足を使うことの大切さが分かりました。私は車いすバスケットボールをやっている人に負けないようバスケットボールの練習にはげみたいです。
- ・ シュートは決められなかったけど、仲間にパスしたり、相手にボールを

	<p>取られないようにしたりしました。なかなかできない体験ができてよかったです。体のどこかが使えなくてもスポーツはやろうと思えば、やれることを知りました。この授業を通して、車いすバスケットボールに興味をもったし、またやりたいと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実際にやってみると、見上げるほどゴールが高くて、シュートができませんでした。そう考えると選手の方はすごい練習をした結果できるようになったのだと思います。しかも、ゴールは健常者と同じゴールの高さだからよりうでの力があると思うとすごいと思いました。足が不自由でもできることはたくさんあると思いました。 • 車いすバスケットボールという今までやったこともないとても貴重な体験ができてよかったです。来年の東京パラリンピックで車いすバスケットボールを見たいくなりました。そして、日本の選手が得点をたくさん取って、優勝してほしいです。 • 選手の中には両足がない方もみえました。車いすバスケットボールではすごく速く移動できてすごいと思いました。私たちとは何も変わらないのだと思いました。 • 来年にはパラリンピックがあります。車いすバスケットボールの体験を通して、応援したくなりました。 • このような経験はめったにできないので、よい思い出になりました。 
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>長根小学校の福祉実践教室では、5年生で車いす体験を行い、6年生で車いすバスケットボール体験を行っている。2年間を通して、車いすで生活する障がい者の方にいろいろな形で触れ、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア精神を育てるとともに、社会や人とのかかわりを大切にする気持ちを育てることが目的である。5年生の車いす体験では、ペアで行えるように20台の車いすを借りて行った。メモを取りながら講師の先生の話を受けるように準備した。また、6年生の車いすバスケットボール体験では、児童同士でも試合ができるように名古屋障がい者スポーツセンターで専用の車いすを6台借りることができた。その結果、6年生全員が体育館で体験することができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>事前に車いす体験や車いすバスケットボール体験について、また、オリンピック・パラリンピックについて調べ学習を行うと良かった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>パラリンピックの競技である「ボッチャ」を行う計画である。「ボッチャ」は低学年の児童でも取り組めるので、どの時間にどんな方法で行うとよいのか、今後考えていきたい。</p>